

# 中国における有機農産物市場の現状 —深セン市を事例として—

梁 涛

キーワード：有機農産物、有機農産物発展の経緯、有機認証法規・制度、流通業者、生産者、消費者のアンケート調査

## 1. 研究背景と目的

ここ数年来、一連の中国における食品安全性をめぐる事件は、国外だけではなく、国内においても、食品安全性に社会的関心を高めることとなった。同時に、中国農業においても、環境との調和が問題視されるようになってきた。このような現状における対策の一つとして、中国でも有機農産物が注目されるようになり、有機農産物市場発展の可能性が議論されるようになり、いくつかの先行研究も出された。但し、めまぐるしく変化する中国社会・経済の中で、現時点での中国の有機農産物の生産・流通・消費の実態を改めて明らかにする必要がある。本研究では、最も有機農産物を販売・消費を行われている深センを事例として、有機農産物市場の現状と今後の展開を考察した。

## 2. 研究方法

まず、中国国内での有機農業、有機農産物の生産、消費行動などの先行研究を整理した上で、中国における残留農薬基準等の食品安全政策の現状、有機農産物の発展経緯と法規・基準を明らかにした。また、現在有機農産物を取り扱っている小売業者と生産業者に対してインタビュー調査を実施した。更に深センの有機農産物を取り扱っているスーパーマーケットの店頭におき、アンケート調査を実施した。

## 3. 結果の考察と結論

現在中国には、国際的な基準である「有機食品」以外に、中国政府が導入した有機食品とほぼ同等の「绿色食品AA級」がある。しかしながら、インタビューを行った三つの企業のいずれも「绿色食品AA級」を取り扱っていないかった。「绿色食品AA級」の認証と販売には、制度上いくつかの解決すべき問題があり、いずれの企業もそうした点を問題視していった。このため、「绿色食品AA級」は今後「有機食品」に取って替わられると考えられる。また、有機農産物(1)卸売市場を経由しない独自の流通経路、(2)小売業者と生産者との話し合いによる固定的な価格設定、(3)認証機関による認証と小売業者独自の確認・検査が同時に行われている生産管理認証、並びに、(4)個人経営よりも、主に企業が主体となっている生産などが、有機農産物の生産・流通の特徴として挙げられる。

また、消費者アンケート調査の結果から、深セン市では、所得や職業、性別に関わらず様々な人が有機農産物を購入していることがわかった。但し、傾向としては30~40代、女性、企業の管理職や自営者・自由業の人、家族と一緒に深センに長く住んでいる人、所得の高い人の購入頻度が相対的に高いということがわかった。

こうした消費者が、有機農産物に何を求めているかということ、それは「安全」である。中国の消費者の8割が一般農産物の残留農薬や添加物質を不安に感じており、このことが有機農産物の購入を促しているようである。また、現在市場で販売されている有機農産物に対して、半数以上の人々が3割高ぐらいまでの価格を許容しているが、有機農産物に対する客観的な認証制度への理解を高め、残留農薬の心配が少なく、健康によく、高品質であることをアピールし、しかも、それが本物であることを示すことが出来れば、更に有機農産物市場が拡大する余地が残されていることがわかった。